

事業概要

- 1 事業場所** 米子市皆生新田
- 2 事業内容** 排水機場 1式(排水能力 $5 \text{ m}^3/\text{s} \times 2$ 基)
【暫定整備1基】
- 3 事業期間** 平成 28 年度～令和 8 年度(予定)
- 4 事業費** 約 30 億円
- 5 事業効果**

県では、水貫川氾濫被害の軽減のため、既存の排水機場に加え、計画規模 $1/30$ 洪水による床上浸水の解消を目標とした排水量 $10 \text{ m}^3/\text{s}$ の排水機場の整備を定めた河川整備計画を平成 28 年に策定しました。

当面は、過去最大の浸水被害のあった昭和 62 年 10 月洪水の床上浸水の解消を目標とした排水量 $5 \text{ m}^3/\text{s}$ の排水ポンプの暫定整備をすることとしています。

* 計画規模 $1/30$ 洪水とは、おおよそ 30 年に 1 回程度の確率で発生する出水をさします。

水貫川の経緯

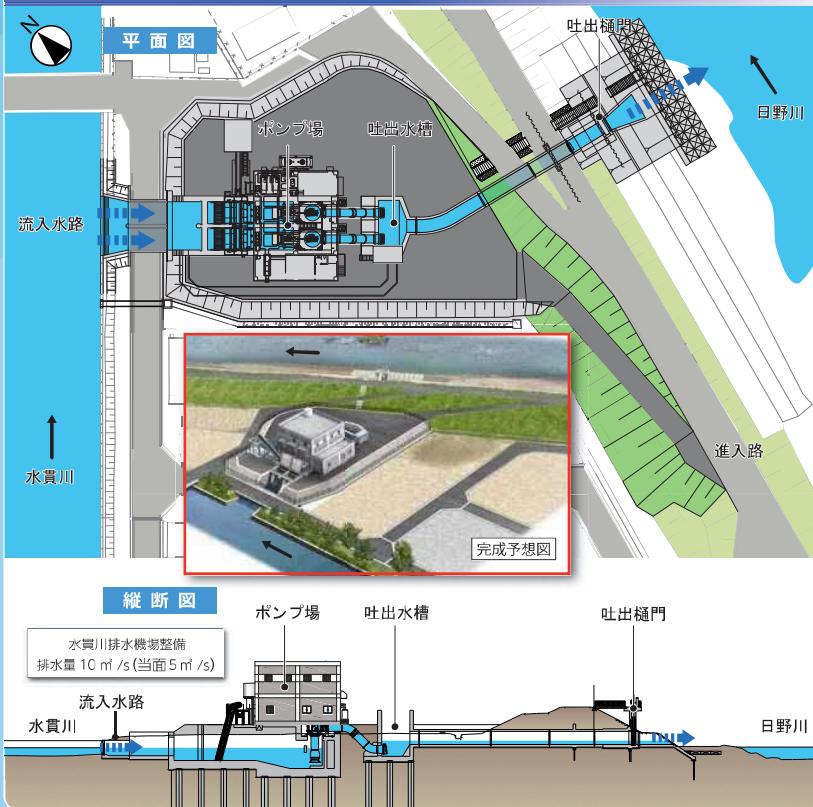
水貫川は、日野川の最大取水用水路の分岐水路として、周辺地域の排水及び灌漑用水路として寄与していましたが、皆生温泉地区の発展に伴い都市計画による市街化が計画されたことを踏まえ、水貫川の流下能力不足を解消するため、昭和 49 年から小規模河川改修を計画して、計画高水流量 $7.0 \text{ m}^3/\text{s}$ とする河川改修を実施しました。

本事業においては、昭和 59 年には合流部に逆流防止橈門(水貫川橈門)を設置しましたが、橈門閉鎖時の排水処理施設が未整備であったため、昭和 62 年 10 月洪水において橈門閉鎖に伴う浸水被害が発生しました。このことを受け、国が平成 8 年度に救急内水対策事業により排水量 $2 \text{ m}^3/\text{s}$ の排水ポンプを設置しました。

しかし、平成 23 年、25 年、30 年の洪水でポンプ排水能力を上回る出水が発生、なかでも平成 30 年は、国及び県の排水ポンプ車も出動して出水対応、家屋への浸水被害はなかったものの道路冠水被害があり、近年、浸水被害の危険性が高まっているところであります。

位置図**水貫川河川改修事業における浸水被害軽減対策****水貫川排水機場**

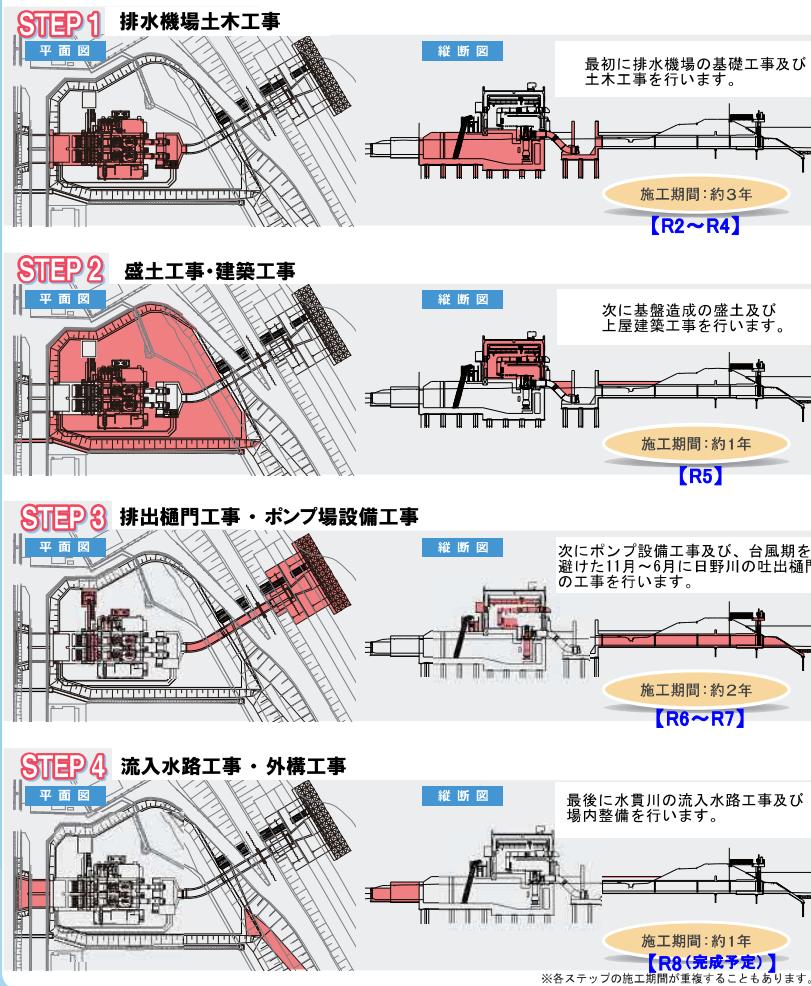
排水機場概要図



排水機場の仕組み



施工手順図



過去の被害写真や水防活動状況

